●第２回委員会における検討委員からの主な意見（平成 25 年 5 月 11 日開催）

＜第１回検討委員会の内容＞

- 発言者と発言内容がわかる議事録を提示する必要がある。
- 岩沼市で地域復興利用ゾーンにエリア区分されている中で，今現在良好な森林が残存している場所が２箇所あり，しかも林帯幅が 200m以上あるが，エリア区分の見直しが出来ないか。

＜防災機能優先ゾーンにおける生物多様性保全への配慮方法＞

- 仙台湾沿岸は環境省の特定植物群落や宮城県自然環境保全地区になっている場所が多く，自然環境が豊かな地区となっている。防災機能優先ゾーンにおける生物多様性保全対策は，入れ子細工的発想やマルチスケールでもう少し丁寧な基本方針を作り，そのデザインを判りやすい形で示して欲しい。
- オオタカへの配慮は，営巣している巣に対する配慮だけではなく，採餌，水浴びなどの生活全体を対象にする必要がある。防災機能優先ゾーンにおいては時間的な制約はあるが，配慮が必要な項目については議論の可能性は残して頂きたい。
- オオタカの生息環境はマツ林だけではなく，農地などの周辺環境との関係もあることから，引き続き専門家の意見を聞きながら対処していただきたい。
- オオタカに対する調査圧の軽減という面から，営巣の重要な段階に国有林が大人数で現地調査したことは不適切だった。
- 盛土は生物多様性にとって好ましくないことや，貞山堀よりも海側では被災木が流失していないことを考慮すると，貞山堀よりも海側で比高が比較的高い場所では盛土をしないことが考えられる。小田式が正しいという前提のもとで盛土が必要なのかもしれないが，疑問は消えない。
- 盛土材料は，砂質土であったとしても海の砂と山の砂では性質が異なるため，生態学的には別の環境を作る懸念がある。帰化植物が繁茂する問題も含めてモニタリングする必要がある。
- 種の保存法掲載種としては，オオタカのほかハヤブサとオオセッカが出現する可能性ある。ハヤブサは，岩沼あたりの海岸林で採食活動しているし，海岸林近くで営巣する可能性もある。オオセッカは今年も確認されている。
- 工事請負業者に要注目種（植物）を確認させることは，仕様書で指導したとしても無理があるので，事前にアセスメント会社に実施させる必要がある。
- 移植はハビタットを保全できない場合の次善の策となるが，実施するのであれば出来るだけ実効性を伴う手法を具体的に提示して頂きたい。事業実行上のタイムスケジュール的にも早急に検討して頂きたい。

＜仙台地区の環境調査手法（現況把握）＞

- 南蒲生モニタリングサイトの調査とデータの共有化を図ることによりスピーディーで低コストな調査が可能になると考えられる。特に植生調査などは調査項目が同じであれば使いやすい。
- 相観植生と地形によるユニット区分と，区分毎の調査箇所数は今回の案で改善された。
- 甲殻類（カニ）が調査項目から抜けているので加えて頂きたい。

＜名取地区の環境調査手法＞

- 植生調査は仙台地区と同様に区分毎に 10 箇所程度実施したほうが良い。

・ 盛土箇所については上面と法面では環境が異なるので区分したほうが良い。
・ 植生調査で標準地を設けるのであれば，マツとニセアカシアは個体数を数えて欲しい。
・ 仙台地区と名取地区のモニタリングが完全に出来ると，対策工事の影響をよく把握することができる。
・ トラップ調査は現在計画されている数であれば生態系への影響は少ない。ただし，トラップにかかった昆虫をネズミが食べてしまうことがあり，対処法は個別に相談に応じる。
・ 名取地区の評価が仙台地区の計画に反映されるので，名取地区の現地調査と評価はなるべく早めに出して欲しい。
・ 盛土を繰り延べた箇所については，モニタリング調査でどのようなことが確認出来たら盛土を実行するのかといった目標を決める必要がある。また，盛土繰り延べした箇所から周辺に動植物が広がることを期待しているのであれば，造成面のチップを除去するなど造成面側での工夫も必要ではないか。
・ モニタリング調査における対照区を盛土面に求めているが，本来は何もしなかったところを対照区にするべきではないか。対照区として仙台工区を考えることもできるし，名取工区の中でも施工していない湿地状箇所なども対照区として考えられるのではないか。
・ 元の表土を活用する工法を実施した場所が特定できるのであれば，そちらもモニタリングしていただきたい。
・ 内陸側の湿地部分は，今後排水機場の整備などで水位変動が予想される。その状況に応じてモニタリング体制を考えることになる。
・ 他事業の状況変化により，海岸防災林事業区域の自然環境が変化することが考えられる。その変化に対応するためには，委員に個別にご相談頂くなどの方法で迅速に対応して頂きたい。

＜その他＞

・ 自然環境保全エリアはモニタリング調査の対象外となっているが，被災後の初期データを調査する必要があるのではないか。
・ 委員と現地でディスカッションする機会を作っていただきたい。
・ 検討委員会の下部組織として現地の実務を判断して動かしてゆく仕組みを作るとスムーズに進むのではないか。
・ ハヤブサは海岸林の樹木に営巣する可能性は低いが，海岸林の近くの建築物に巣を作る可能性がある。

＜平成２５年度事業計画＞

・ 特に意見なし